

第 2 次総合計画の素案策定について

1 第 2 次総合計画の概要

(1) 計画の特長

- ・第 1 次総合計画の協働の取り組みを継承しつつ、地域全体の共通ビジョンである公共計画として策定。
- ・高い実効性を確保するため、策定段階から市民、市内団体の意見を十分取り込み、その内容を施策のターゲット別に分析する。
- ・人口減少などの厳しい社会経済の背景を具体的に分析したうえで、重点的に取り組む戦略分野を明確にし、限られた資源を重点配分する。
- ・基本構想内に土地利用構想、自治体経営体制を盛り込み、将来に向けた都市空間整備と協働による計画の推進体制を明確に示す。

(2) 第 1 次総合計画との変更点

項目	第 2 次総合計画	第 1 次総合計画
位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・自治基本条例を根拠。 ・市全体で推進する公共計画（地域全体の共通ビジョン） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治法を根拠。 ・行政が実施する地域社会経営のための行政計画。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・牧之原市としての魅力創出と持続可能な自治体経営。 ・地域の力を結集して推進し、課題解決に高い実効性を持って対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両町の歴史、文化、発展の成果を継承。 ・協働のまちづくりを推進するための方向性を示す。
背景	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化、震災の影響、施設の改修更新費用を具体的に分析。 ・財政見通しによる将来不足額の明確化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少は想定しつつも空港の開港などによる経済の発展を想定。 ・具体的な財政見通しは未実施。
構成	<ul style="list-style-type: none"> ・将来都市像の実現に向けた戦略分野を明確にし、重点的に資源配分。 ・魅力的な都市空間整備を進める開発拠点とその方向性を明確化。 ・地域、団体、市役所などの協働による推進体制を基本構想に明確化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来都市像に基づき、全ての施策と事業を体系化。 ・土地利用は、地域の均衡ある発展を目指し、ゾーニングが主体。 ・協働によるまちづくりを基本理念に反映。
期間	基本構想 8 年 基本計画 前後期 各 4 年	基本構想 10 年 基本計画 前後期 各 5 年

2 市民討議会による総合計画の素案策定

(1) 目的

- ・第2次総合計画の策定に当たり、本年7月から9月にかけて、市民意識調査や市内団体との意見交換会を通じて、幅広い市民の意見を収集。
- ・その内容と市役所内のプロジェクトチームによる方向性の検討内容をまとめた「市民討議資料」をベースに今後取り組む重点課題と施策方向性などについて、市民が主体となって協議し、計画の素案としてまとめていく。

(2) 構成

- ・市内の主要な団体などから選出された30人(各分野で活躍している若手を中心に)
- ・有識者3人(大学の教授など)
事務局は、市役所と主要団体などの職員で構成する。

(3) 日程

回数	開催日	協議事項	内容
第1回	12月17日(火)	市民討議資料の説明	・資料の内容説明 ・参加者による意見交換
第2回	1月中旬	重点戦略	・3グループに分かれ協議 ・人口減少社会における自治体経営に必要な重点戦略をテーマ
第3回	2月中旬	各施策の方向性	・3グループに分かれ協議 ・前回結果を踏まえた個別施策の方向性をテーマ
第4回	3月上旬	全体のまとめ	・これまでの結果のまとめ ・将来都市像、基本理念を決定

3 市民討議資料の作成

(1) 概要

市民討議会における協議のベースとなる背景、基本的考え方、各種市民意見のまとめと分析、市役所内部での検討内容をまとめたもの。

(2) 構成

構成	項目	内容
第1部	総合計画の構成	市民討議会の概要、市を取り巻く時代の潮流、人口推計、財政見通し、基本的な考え方 など
第2部	分析資料	市民意識調査、市内団体との意見交換会、市役所のプロジェクトチームによる検討結果 など